

市町村等新任相談担当者研修 統合失調症と 地域における支援の考え方

令和8年6月26日
愛知県精神保健福祉センター
所長 精神科医師 藤城 聡

2026/6/26

令和8年度市町村等新任相談担当者研修

本日の内容

1. 統合失調症について
2. 地域における支援の考え方

2026/6/26

令和8年度市町村等新任相談担当者研修

統合失調症とは

- 今のところ原因不明
- 青年期（遅くとも30代までに）に始まることが多い。
- 120人に一人くらいは一生の間にかかる。
- 昔は治りにくい病気と考えられていたが、現代の治療では半数以上は完全にあるいは軽度の障害を残して回復する。

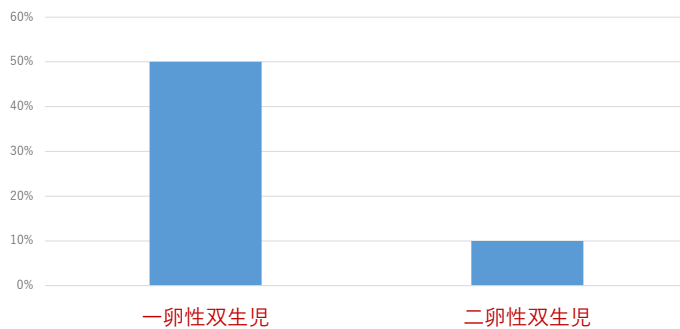
2026/6/26

令和8年度市町村等新任相談担当者研修

統合失調症は遺伝の病気？

遺伝の影響は？

統合失調症発症の一致率



- 遺伝だけで統合失調症になるわけではない

2026/6/26

令和8年度市町村等新任相談担当者研修

親の育て方で病気になる？

- 「統合失調症を作る母親」
- 「統合失調症を作る親」

1950年代から1970年代にかけて流行したが、今日では完全に否定されている。

- **子どもの統合失調症は親の責任ではない！**

2026/6/26

令和8年度市町村等新任相談担当者研修

ストレス脆弱性モデル

- 統合失調症になりやすい体質を持った人にストレスが加わることで、統合失調症が引き起こされるという考え。
- レジリエンス（レジリアンス）：逆境にあっても発症に抵抗し、また病気になったとしても、そこから「回復」、「復元」する力のこと。レジリエンスをうまく利用して、回復してもらおう試みも行われるようになっている。

2026/6/26

令和8年度市町村等新任相談担当者研修

統合失調症の症状

- 陽性症状：幻覚・妄想、精神運動興奮、精神運動昏迷など通常の心理状態では出現しない症状
- 陰性症状：無関心、無為、意欲低下など通常の心理状態にはあるものが欠如または低下している症状
- 思考過程の障害
- 認知機能障害：広範囲な認知領域に軽度ながら低下が認められる。言語性記憶、実行機能、注意の障害、社会的認知機能

2026/6/26

令和8年度市町村等新任相談担当者研修

幻聴とは

- そこに人がいないにもかかわらず、話しかけてくる声が聴こえる
- そこに人がいないにもかかわらず、自分の行動に注釈したり、自分のことについて話し合っている声が聴こえる
- 幻の声というが、本人にとっては現実、あるいは現実以上の実感がある体験である

2026/6/26

令和8年度市町村等新任相談担当者研修

さまざまな幻聴

- 「殺す」などの脅迫的幻聴
- 「バカ」その他、差別観による軽蔑・嘲笑の幻聴
- おだてるような、あるいは棚からボタモチ式の幻聴
 - ・ 「三億円やる」「お前は大スターだ」
- あたたかい支持的な幻聴
 - ・ 「毎日出勤のとき、となりのおじさんが『大丈夫だよ』と言う」

2026/6/26

令和8年度市町村等新任相談担当者研修

妄想？

田名部瑞月 @mizukitanabe 2日前

すっごく寒いから、今日はパンツスーツ。夜にあったかくておいしいものを食べることを妄想して、今日も一日がんばろ。iPod シャッフルが空気を読んで、真夏の歌ばかり流してくる（笑）

朝井リョウ 「何者」

2026/6/26

令和8年度市町村等新任相談担当者研修

妄想の定義

- 絶対的確信であって、
- 訂正不能であり、
- 内容は多かれ少なかれ現実離れしており、
- 他者と共有されない。

2026/6/26

令和8年度市町村等新任相談担当者研修

妄想によく似た病的体験

- 思考化声（自分の考えが声になって聴こえてくる）
- 身体的被影響体験（例：電波をかけられる）
- 思考奪取、その他の思考への干渉（考えを抜き取られる、考えたくないことを考えさせられる）
- 筒抜け体験（自分の考えが他人に伝わってしまう）
- させられ体験（例：勝手に怒らされる、勝手に性欲を感じさせられる、テレパシーで操られる）

2026/6/26

令和8年度市町村等新任相談担当者研修

幻覚・妄想にどう対応するか

- 中立的な態度
 - 否定も安易な同調もしない
 - 「ふしぎだね」
 - 「私は経験していない」
 - 「幻覚や妄想の中にも現実が宿っている」ことを念頭に
 - 幻覚や妄想の背景にある不安感に着目する

2026/6/26

令和8年度市町村等新任相談担当者研修

「行人（夏目漱石）」より

語り手二郎の友人、三沢の家に事情があって夫の家を出た娘が引き取られていた。この娘は「少し精神に異常を呈して」おり、三沢が外出すると必ず玄関まで来て、「早く帰ってきて頂戴ね、ね」と三沢が「早く帰りますから大人しくして待っていてらっしゃい」と言うまで何度でも繰り返す。

「病人の事だから恋愛なんだか病気なんだか、**誰にも解るはずがないさ**（三沢）」
娘の夫は放蕩家で新婚早々、度々うちを空けたり、夜遅く帰ったりして、娘の心を散々苛め抜いたらしいが、娘は一言も苦しみを言わず我慢していたという。

「**その時のことが頭に崇っているから、離婚になった後でも旦那にいたかった事を病気のせい**で僕に**いったのだ**そうだ。（三沢）」

「けれども僕はそう信じたくない。強いても**そうでないと信じていたい**。（三沢）」

「その女が果たしてそういう種類の精神病患者だとすると、凡て世間並みの責任はその女の頭から消えてなくなってしまうに違ひなからう。消えてなくなれば、**胸に浮んだ事なら何でも構わず露骨に言える**だろう。そうすると、その女が三沢に**いった言葉は、普通我々が口にする好い加減な挨拶よりも遥に誠の籠った純粹なもの**じゃなからうか。（一郎＝二郎の兄）」

2026/6/26

令和8年度市町村等新任相談担当者研修

あまり訴えられない症状

- 恐怖
- 警戒心（「走査型の注意」、「一点集中型の注意」）→しんどさ、疲れ
- 疲れ（身体の疲れ、頭の疲れ、気疲れ）
- 身体症状
- “発作”症状（「知覚変容発作」など）
- 退屈

2026/6/26

令和8年度市町村等新任相談担当者研修

統合失調症の治療 薬物療法

- 薬物療法
 - ・ 幻覚や妄想など急性期の症状には有効性が高いものの慢性期の（陰性）症状に対する有効性は十分ではない
 - ・ 新しく開発された抗精神病薬（非定型抗精神病薬）は従来より副作用が少なく、多く使われるようになっているが、副作用がないというわけではなく、血糖値の上昇などに注意が必要
- クロザピン
 - ・ 他の薬物に対して反応がない場合
 - ・ 顆粒球減少という重い副作用があるため、対処できる体制がある病院でしか使用できない

2026/6/26

令和8年度市町村等新任相談担当者研修

統合失調症の治療 電気けいれん療法

- 電気けいれん療法
 - ・ 全身麻酔をかけて、実際にはけいれんをおこさない方法が普及しつつある（修正型電気けいれん療法）
 - ・ 昏迷や興奮が激しく、薬物療法の効果を期待できず、全身状態悪化や自傷他害の危険が切迫しているとき
 - ・ 自殺の危険が切迫しているとき
 - ・ 身体合併症や副作用のため、薬物療法が行えないとき

2026/6/26

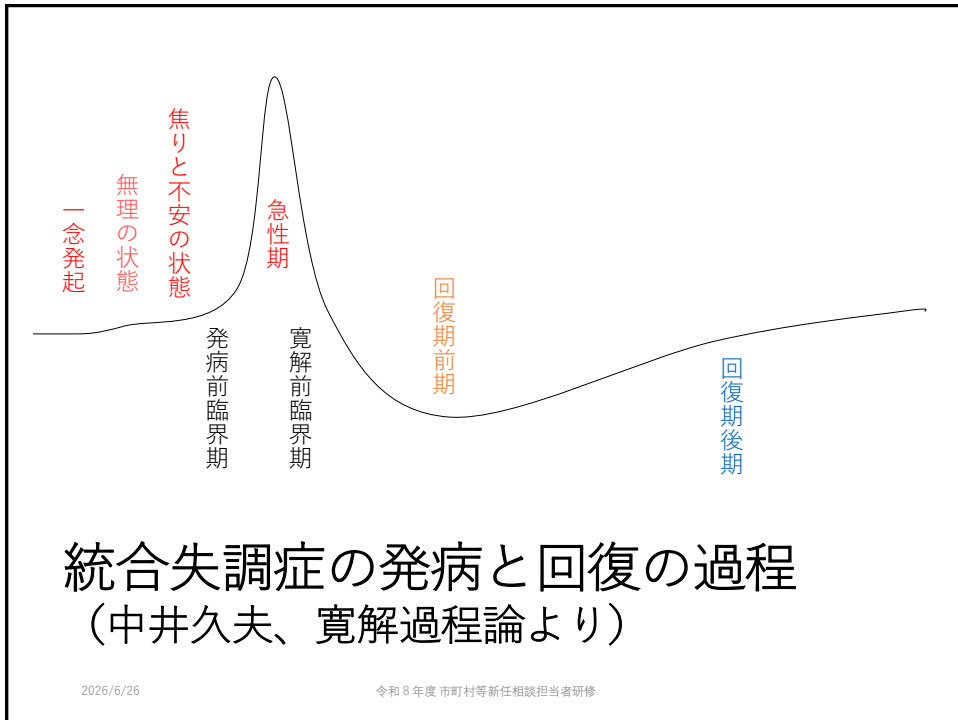
令和8年度市町村等新任相談担当者研修

統合失調症の治療 心理社会的治療

- 支持的精神療法
 - ・ 本人のプライバシーを尊重し、率直、誠実でわかりやすい態度で、受容的に、忍耐をもって接すべき
 - ・ 幻覚や妄想についても、本人がそのように体験していることを尊重し、否定や安易な肯定を避け、中立的態度をとる
- 心理教育
 - ・ 本人や家族に、疾患についての知識をわかりやすく伝え、理解を深めることにより、困難に対する対処能力を高めようとするもの
- 社会生活技能訓練
- 作業療法
- 芸術療法

2026/6/26

令和8年度市町村等新任相談担当者研修



統合失調症を持つ人は・・・

- (統合失調症という) 混乱の下に埋まってはいるが、健康な生命が存在している。
- 幻覚があっても、心の奥深くでは現実との関わりを保っている。
- 妄想や混乱した思考があっても、思慮分別を持っている。
- 驚くような感情的行動の背後に、温かく、人間的な心を隠し持っている。

(Manfred Bleuler,1979)

本日の内容

1. 統合失調症について
2. 地域における支援の考え方

2026/6/26

令和8年度市町村等新任相談担当者研修

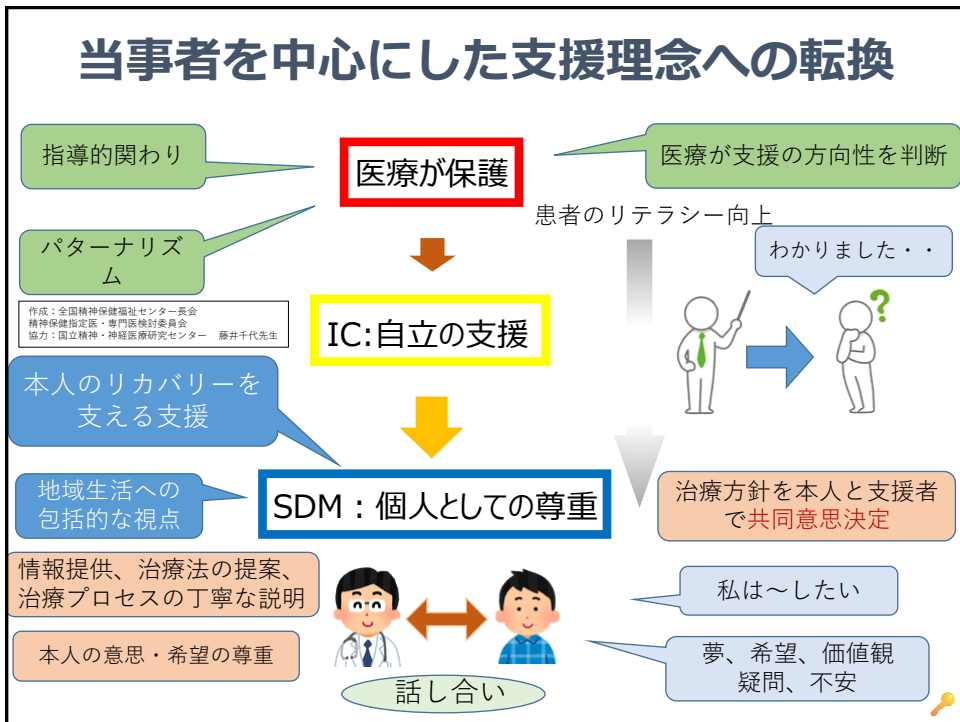
地域生活支援にかかせない視点

1. 利用者ニーズの尊重
 - スタッフがあるべき姿を押し付けない
 - 本人の希望の実現のプロセスと一緒に相談
2. 症状よりも生きづらさを重視
 - 本人の持つ生活面での課題・困ったことに焦点を当て、その改善を図る
3. 利用者の資質・強み（ストレングス）を尊重
 - 利用者の病理性・問題点よりも、今後に生かすことができる強みを発見して活用する

作成：全国精神保健福祉センター長会
 精神保健指定医・専門医検討委員会
 協力：国立精神・神経医療研究センター
 藤井千代先生

退院後支援ガイドラインでも強調されたポイント





クライアントこそ専門家である (H. アンダーソン、H. グーリシャン)

- セラピストはマニュアル的な質問や特定の回答を求める質問ではなく『無知の姿勢(not-knowing)』で質問する
- セラピストの行為や態度は、話されたことについてもっと深く知りたいという欲求を表すもので、クライアント、問題、変化すべきものについての前もって用意された意見や期待を表すものではない
- セラピストは、心理学の専門知識でクライアントの優位に立つのではなく、クライアントのもつ〈専門知識〉に導かれ、そこから学ぶ

「ナラティブ・セラピー 社会構成主義の実践」マクナミー&ガーゲン、野口・野村訳 遠見書房 2014年より

2026/6/26

利用者が持つ様々な強み (ストレングス)

- その人の性質・性格

「面白い人」「ユーモアのセンスがある」「思いやりがある」「思慮深い」など

- 技能・才能

「ギターを弾くのが上手」「溶接をする技術を持っている」「効率よく買い物ができる」「素晴らしい写真を撮る」など

- 環境のストレングス

「人的サポートシステム（友人、ペットなど）」「車」「支持的な地域」「仕事」「交通のアクセスの便がよい」「図書館が近くにある」など

- 関心・願望

「ロックスターになりたい」「映画を見るのが好き」「魚釣りが好き」「仕事でお金を稼ぎたい」「結婚したい」など

2026/6/26

令和8年度市町村等新任相談担当者研修

ストレングスへの 働きかけの実際

- 利用者の強み（ストレングス）を発見していく
- 好きなことは何か？
- 興味を持っていることは何か？
- やりたいと思っていることは何か？
- 利用者のストレングスを活かして、できることは何か？

2026/6/26

令和8年度市町村等新任相談担当者研修

レジリエンス（復元力）

- レジリエンスとは、「重大な逆境という文脈の中で、良好な適応をはたすこと」
- レジリエンスとはたとえその人の生活にストレスや緊張があっても、柔軟に、そして前向きに適応する能力である。
- ワーナー & スミスのカウアイ島での長期追跡調査
 - ・ 1955年に出生した698人の子どもの追跡調査。家庭の貧困、家庭内での両親の不和、両親の離婚、両親の何らかの精神障害、両親の教育程度が低いことなどのリスクの存在にもかかわらず、1/3の子どもたちはリスクのない子どもたちと同様な発達を示した。
 - ・ 問題を抱えた10代の若者も40歳までに、集団全体と比べ、わずかに高い死亡率を示したものの、大部分は中年期に達したときには深刻な適応上の問題を示していなかった。彼らは、20代、30代に「自然に」発生した機会とコミュニティの中のサポートシステムを活用することによって－正式な介入プログラムを受けずに－回復した。
 - ・ この集団の男女はメンタルヘルスの専門職（の支援）を、配偶者や友人、拡大した家族の成員、教師、メンター、同僚、教会のメンバーまたは牧師が与えてくれた忠告や助言より、ずっと低く位置づけていた。

2026/6/26

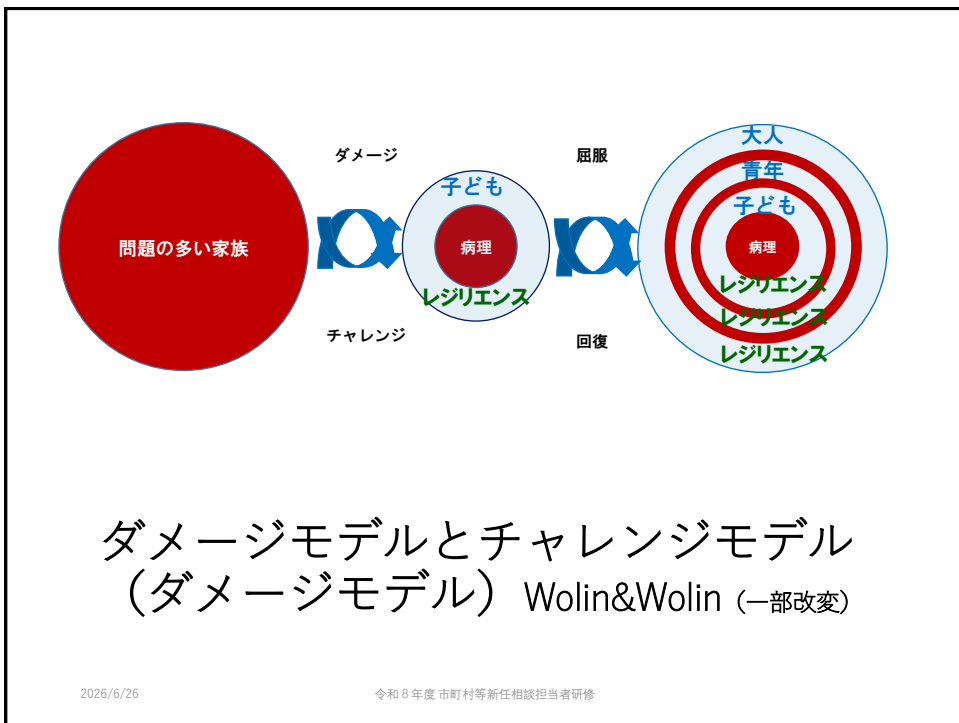
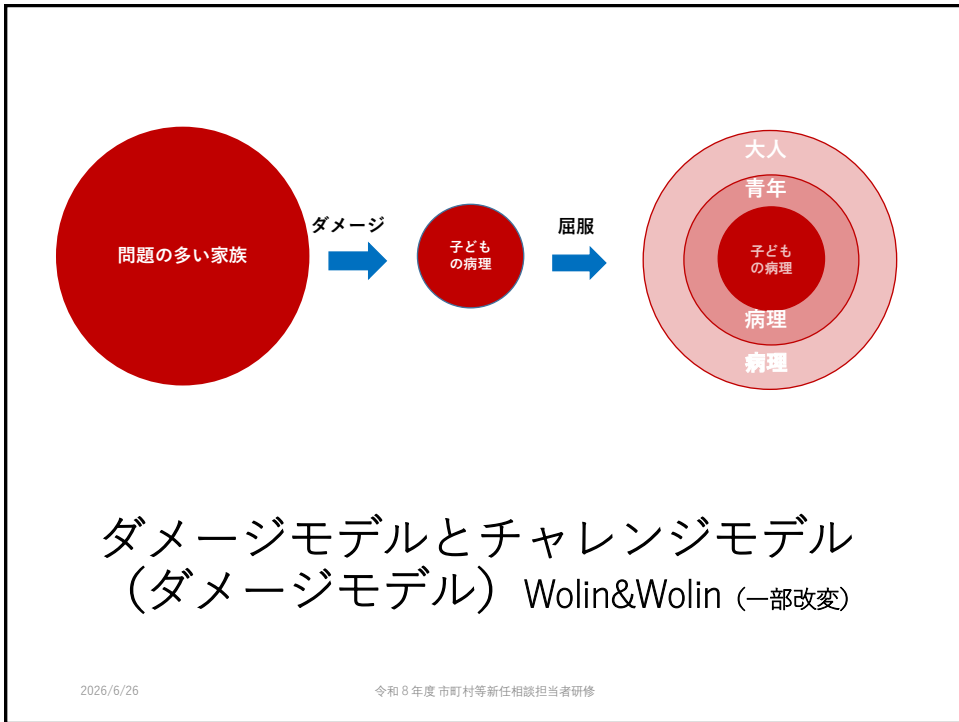
令和8年度市町村等新任相談担当者研修

レジリエンスとは

- レジリエンスは自分の困難で傷つきっぱなしの人生の痛みを「そんなことはなんでもない」と無邪気に割り引くことではない。そういう厳しい試練にも立派に耐え抜く能力のことである。・・・レジリエンスは一続きの流れである－絶え間ない成長と才能、洞察、人生が要求する試練に向き合うことを通じて、はっきりする美徳である（Saleebey,D.）
- その人が置かれたコミュニティーの文化、習慣、価値観、歴史性などの文脈によって、どういう状態が健康であるとみなされるかは異なる。すべての人に共通な「望ましい健康状態」があるわけではない。支援者が考える「健康」と当事者が考える「健康」は異なっているかもしれない。

2026/6/26

令和8年度市町村等新任相談担当者研修



エンパワメントという考え方

- エンパワメントとは、その人が自分の**人生の主人公**となれるように力をつけて、自分自身の生活や環境をより**コントロール**できるようにしていくこと
- その人の能力は訓練や指導によって後から与えられるものではなく、**その人が本来もっている**もので、さまざまな制約によって発揮されていなかったもの。本人が力を発揮できるようにするためには、あらゆる**社会資源を再検討し、条件を整備していく**ことが必要
- 事例としてではなく、**人として見る**。利用者は**意志を持って自分から行動する**人である。
- **敬意と誠実さ**を示すことが必要
- 利用者と支援者は**対等な**（与え手、受け手ではなく）**協力関係**
- **自己対処技能**を使っていく
- 利用者の人的資源、自宅や家庭的環境、地域の資源、ピアサポートを活用する
- 支援者もエンパワメントされている必要がある

2026/6/26

令和8年度市町村等新任相談担当者研修

リカバリーとは

- 疾患によりもたらされた**制限を備えていても、満足感のある、希望に満ちた、人の役に立つ人生**を生きることである。精神疾患の大きな影響を乗り越えて**成長し**、人生に**新しい意味や目的**を見出すことでもある。(Anthony, 1993-1998)
- リカバリーは過程であり、生き方であり、構えであり、日々の挑戦の仕方である。**直線的な過程ではない**。ときに道は不安定となり、つまづき、止めてしまうが、気を取り直してもう一度始める。必要としているのは、**障害への挑戦**を体験することであり、障害の制限の中、あるいはそれを越えて、**健全さと意志**という新しく**貴重な感覚を再構築**することである。求めるのは、**地域の中で暮らし、働き、愛し**、そこで自分が**重要な貢献**をすることである。(Patricia Deegan, 1988)

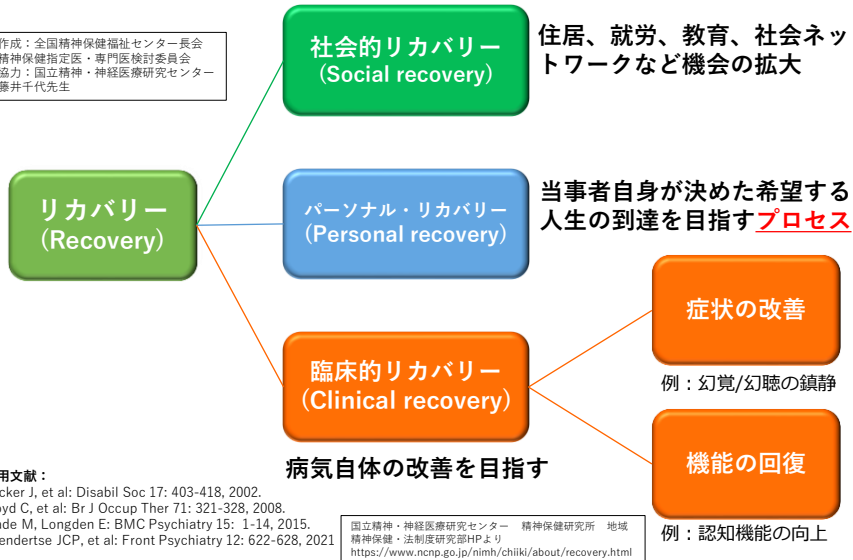
2026/6/26

令和8年度市町村等新任相談担当者研修

「パーソナル・リカバリー」、「社会的リカバリー」、 「臨床的リカバリー」の枠組み

※臨床的リカバリーとパーソナルリカバリーのどちらが重要かという議論ではありません

作成：全国精神保健福祉センター長会
精神保健指定医・専門医検討委員会
協力：国立精神・神経医療研究センター
藤井千代先生



引用文献：

Secker J, et al: Disabil Soc 17: 403-418, 2002.
Lloyd C, et al: Br J Occup Ther 71: 321-328, 2008.
Slade M, Longden E: BMC Psychiatry 15: 1-14, 2015.
Leendertse JCP, et al: Front Psychiatry 12: 622-628, 2021

国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 地域
精神保健・法制度研究部HPより
<https://www.ncnp.go.jp/nimh/chiki/about/recovery.html>



リカバリーが意味しないことと (意味すること)

- 症状を体験していない
→症状があってもリカバリーである
- 悩みのない人生を生きること
→悩みがある人生でもリカバリーである
- 精神保健サービスを利用することはない
→精神保健サービスを受けていてもリカバリーである
- 薬物療法が必要なくなる
→薬を飲んでいてもリカバリーである
- その人が自分のすべてのニーズを満たす上で「完全に自立」していること
→ニーズを満たすうえで必要な支援を受けていてもリカバリーである

地域支援の事例

- Aさん、50代男性、約30年前発症？ 統合失調症
- 鼻をつくにおい、無精髭、マジックで大きな文字の書いてあるナップサック、刑務所・税務署・市役所・保健所等にふらっと立ち寄り、奇想天外な話をして帰る
- 「～反対」という看板をもって騒ぐ、車庫にペンキを塗って警察に保護される、歯科の看板を無断で持ってくる
- 保健所が病院受診を支援するが、「交通費がないからいけない」と定期的通院をしない。母親は介護認定を受けるが、サービス利用を望まない → 保健所と地域包括支援センターで見守り
- 「お母さんを介護するAさんを支援」
- 「警察に3億円の通帳を返してもらえない」 → 「お金が足りなくて困っている」、「チフスがでる」 → 「猫がたくさんいて住環境が不潔だという心配の現れ」
- 新聞の片隅の記事がキーワードとなり、話題が展開していることに気づく

2026/6/26

大野 統合失調症のひろば, 2018年・秋, 日本評論社

地域支援の事例

- Aさん、50代男性、約30年前発症？ 統合失調症
- 鼻をつくにおい、無精髭、マジックで大きな文字の書いてあるナップサック、刑務所・税務署・市役所・保健所等にふらっと立ち寄り、奇想天外な話をして帰る
- 「～反対」という看板をもって騒ぐ、車庫にペンキを塗って警察に保護される、歯科の看板を無断で持ってくる
- 保健所が病院受診を支援するが、「**新しいアイデンティティ**からいけない」と定期的通院をしない。母親は介護認定を受けるが、サービス利用を望まない → 保健所と地域包括支援センターで見守り
- 「お母さんを介護するAさん」 **Aさんのストレングス・レジリエンス**
- 「警察に3億円の通帳を返してもらえない」 → 「お金が足りなくて困っている」、「チフスがでる」 → 「猫がたくさんいて住環境が不潔だという心配の現れ」
- 新聞の片隅の記事がキーワードとなり、話題が展開していることに気づく

2026/6/26

大野 統合失調症のひろば, 2018年・秋, 日本評論社

地域支援の事例その2

- 病院のケースワーカーと連絡を取り、母親の年金支給日に合わせ、受診日を調整
- 冬、「ノーベル賞 保健所 田中ベン・ケースー 外出はAと申します」と書いた紙をもって保健所に→これまで長らく「Aさん」と呼ぶ人が周りにいなかったのかも。保健所や地域包括支援センターの職員に親しみを込めて、「Aさん」とよばれるようになり、**Aさんとして**生きる時間ができてきた
- 1年後、春色のござっぱりした服装で見違えるように
- 2年目、**地域活動支援センターの陶芸プログラム**の見学を提案→「自分は陶芸のプロで加藤四郎左衛門。アマチュアではやってはいけないことになっているが、行ってみてもよい。プロだということは伝えてほしい」→参加し、笑顔でメンバーと一緒に弁当を食べる
- 新しい手帳を購入し、病院の予約や訪問の予定を書き込む→生活に張り合い、止まっていたAさんの時間が動き出す
- 母親も包括支援センター職員に慣れ、ヘルパー利用が始まる。母親は認知症の診断受け、成年後見人がつく
- 頑固な母親に手を焼くヘルパーや母親の後見人から「**お母さんを介護する長男**」と**頼りにされる**

2026/6/26

大野 統合失調症のひろば、2018年・秋、日本評論社

地域支援の事例その2 問題解決法

- 病院のケースワーカーと連絡を取り、母親の年金支給日に合わせ、受診日を調整
- 冬、「ノーベル賞 保健所 **事例ではなく、一人一人として接する** はAと申します」と書いた紙をもって保健所に→これまで **一人一人として接する** が周りにいなかったのかも。保健所や地域包括支援センターの職員に親しみを込めて、「Aさん」とよばれるようになり、**Aさんとして**生きる時間ができてきた
- 1年後、春色のござっぱりした服装で見違えるように
- 2年目、**地域活動支援センターの陶芸プログラム**の見学を提案→「自分は陶芸のプロで加藤四郎左衛門。アマチュアではやってはいけないことになっているが、行ってみてもよい。プロだということは **地域への参加** 加し、笑顔でメンバーと一緒に弁当を食べる **生きがい**
- 新しい手帳を購入し、病院の予約や訪問の予定を書き込む→生活 **新しいアイデンティティの構築 地域への貢献** まっていたAさんの時間が動き出す
- 母親も包括支援センター職員に慣れ、ヘルパー利用が始まる。母親は認知症の診断受け、成年後見人がつく
- 頑固な母親に手を焼くヘルパーや母親の後見人から「**お母さんを介護する長男**」と**頼りにされる**

2026/6/26

大野 統合失調症のひろば、2018年・秋、日本評論社

地域支援の事例その3

- 支援者をねぎらう
- **母親のケア会議に出席**。支援者と暮らしぶりや困りごとを共有し、「生活の知恵」を出し合いながら、暮らしやすくなるような解決策を見つけていく場になる。
- ヘルパーと買い物に行き、**決まった金額でやりくりできるように練習**
- ある日のケア会議終了後「今日は仕事みたいで嬉しかった。いつ出ていくかわからないあの人（母親）を見張って2階で寝ているのはつらいですわ。仕事がしたい」「医者はまだ難しいからやめようかね。細かい作業はできないから、身体を動かさず仕事がしたい」
- 4年目の春、支援者が異動。「こんな若い人に私みたいな老人の世話ができるかと思いましたが、いろいろとお世話になりました。実はこう見えて私は300歳を超えておまして…」

2026/6/26

大野 統合失調症のひろば、2018年・秋、日本評論社

地域支援の事例その3

地域での役割・貢献

- 支援者をねぎらう
- **母親のケア会議に出席**。支援者と暮らしぶりや困りごとを共有し、「生活の知恵」を出し合いながら、暮らしやすくなるような**問題解決法** 解決策を見つけていく場になる。
- **障害があっても地域で暮らす現実へのソフトランディング** **決まった金額でやりくりできるように練習**
- ある日のケア会議終了後「今日は仕事みたいで嬉しかった。いつ出ていくかわからないあの人（母親）を見張って2階で寝ているのはつらいですわ。仕事がしたい」「医者はまだ難しいからやめようかね。細かい作業はできないから、身体を動かさず仕事がしたい」
- 4年目の春、支援者が異動。「こんな若い人に私みたいな老人の世話ができるかと思いましたが、いろいろとお世話になりました。実はこう見えて私は300歳を超えておまして…」

2026/6/26

大野 統合失調症のひろば、2018年・秋、日本評論社

精神の障がいとともに生きる人 とのかかわり

- 一番重要なのは、「一人の人間同士として」関わること
 - 目の前にいる人は意志を持ち、主体的に自分の生き方を決める人である
 - その人が主導権を持って、その人の人生を生きることを支援する
- まず最初にすべきことは関係を作ること（ラポール）
- つらいこと、困っていることを傾聴する
- 症状・問題点だけではなく、その人の強み、生き方、生活全体をみる→
どんなことが好きで、どんなことがしたいのか、どのような生き方を望んでいるのか
- できれば、症状や問題点のプラスの面が見えると良い
- 専門的なかかわりでなくても良い

2026/6/26

令和8年度市町村等新任相談担当者研修

WARNING (注意)

- ここからの講義には、虐待やDVなどトラウマに関係する内容が含まれます。
- これまでの経験から、落ち着かなくなったり、つらい経験を思い出してしまうことは誰にでも起こりうる自然な反応です。
- 体調が悪くなりそうと思われる方は、モニターと音声を切るか、一旦退室するなどして、午後からのプログラム（13:10）から、再参加（再入室）してください。
- 参加中に気分が悪くなった方は、モニターの前から離れて、深呼吸、ストレッチなどで、気分を落ち着かせてください。それでも改善しないようなら、愛知県精神保健福祉センター（052-962-5377）までご相談ください。

2026/6/26

令和8年度市町村等新任相談担当者研修

トラウマ・インフォームドケア (TIC)

- トラウマになる出来事：虐待、身近な人の死、DV、家族の不和、機能不全家族、いじめ、友人関係のトラブル、孤立、教員との関わり、**医療の経験（強制入院、隔離・拘束など）**など。
- トラウマのメガネを通して、その人の行動を見る→問題行動とされることもトラウマの影響として理解できることがある。
- トラウマの影響について**理解し**、サインに**気づき**、**対応する**。
- トラウマについて聞き出すことはしないで、安全な空間を作り出し、**新たな傷つきを防ぐ**。

参考書籍：大岡由佳編 「トラウマインフォームドサポートブック 犯罪、虐待、いじめ、DV、災害などの被害者支援のために」中央法規 2023年

トラウマ・インフォームドケアの実例

事例	よくある対応	別の視点
ある高齢の男性が、混雑した薬局で処方薬を待つために列に並んでいる。歩行器をぎゅっと握りしめながら、体を前後に揺らしている。別の客が自分より先に呼ばれた瞬間、彼は怒りを爆発させた。「おい、私の方が先だっただろう！ あなたたちはいつも私を無視するんだ。」	店長は彼をなだめようとするが、男性はなおも騒ぎ立てている。周囲の客がひそひそと話していることに気づいた店長は、彼が薬物の影響下にあるのではないか、あるいは危険な人物なのではないかと考える。そこで彼女は、レジ係に警察を呼ぶよう指示する。	店長は男性を落ち着かせようとするが、同時に彼を追い詰めないよう距離をとる。そして自らに問いかける。「この男性は何か苦痛を抱えているのだろうか。彼にいったい何が起きているのだろうか。」店長は彼に水を差し出し、静かに座れる場所を用意した。
小学4年生の児童が校庭で別の児童に石を投げ、けがをさせた。その場の安全が確保され、状況がいったん収束したところで、担任教師と校長が今後の対応について話し合う。	担任教師は校長に、その児童はしばしば問題行動を起こし、周囲を乱しており、「ぼんやりとしていて、学校にまったく興味がないだけだ」と説明する。そして、数日間の登校停止にし、ADHDの評価を受けさせることを提案する。	担任教師は、その児童が疲れており、しばらく前からいつもと様子が違っていることに気づく。彼女は、家庭で何か起きているのではないかと考え、この児童を支えるために何ができるかを校長に相談する。

2026/6/26

令和8年度市町村等新任相談担当者研修

Wathen, N., Varcoe, C. ed. Implementing Trauma- and Violence- informed Care. A Handbook. University of Toronto Press, 2023 日本語訳は講師の責任



TICC
こころのケガを癒やす
コミュニティ事業

HOME TICCCについて 講座 研修会 お役立ち集 メルマガ 問い合わせ

お知らせ

2026年6月11日 木曜日
2026年度 TICCC主催の企画等の日程
[記事へ →](#)

2026年6月11日 木曜日
研修「アートの時間～トーク&アートワーク～」
[記事へ →](#)

2026年5月11日 月曜日
コラム連載のお知らせ
[記事へ →](#)

こころのケガを癒やすコミュニティ事業
(Trauma Informed Care/Community:TICC事業)

2026/6/26 令和8年度市町村等新任相談担当者研修

逆境的小児期体験 The Adverse Childhood Experiences (ACE)

- ACEの種類 (1998年)
 - 心理的虐待
 - 身体的虐待
 - 性的虐待
 - 同居者の物質乱用 (アルコール、薬物)
 - 家族成員の精神疾患 (うつ、精神的不調、自殺企図)
 - 母親 (継母) に対する暴力
 - 家庭内の犯罪行為 (家族成員の収監歴)
 - (+ 身体的ネグレクト、情緒的ネグレクト、ひとり親・両親の不在)
- 50%以上の方が少なくとも一つの、4分の1の方が二つ以上のACEを経験。
- 経験したACEの数が増えるとともに、自殺企図、うつ、アルコール依存、違法薬物使用などの他、高度の肥満、虚血性心疾患、がん、慢性気管支炎、肺気腫など身体的問題のリスクも上昇する。

Felitti, VJ et.al.: Relationship of Childhood Dysfunction to Many of the Leading Causes of Death in Adults. The Adverse Childhood Experiences(ACE) Study. Am J Prev Med 1998;14(4)

ACEと依存症

Felitti, VJ. et al.: Relationship of Childhood Abuse and Household Dysfunction to Many of the Leading Causes of Death in Adults. The Adverse Childhood Experiences(ACE) Study. Am J Prev Med 1998;14(4)

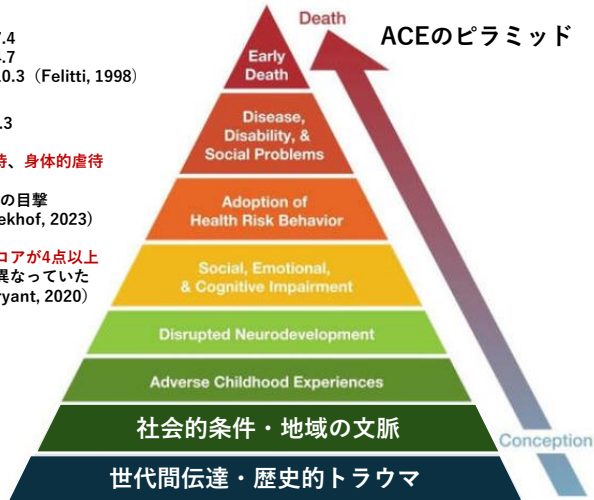
Broekhof, R. et al.: Adverse childhood experiences and their association with substance use disorders in adulthood: A general population study (Young-HUNT). Addictive Behaviors Reports, Volume 17, June 2023. 100488

Bryant, DJ. et al.: Association of adverse childhood experiences (ACEs) and substance use disorders (SUDs) in a multi-site safety net healthcare setting. Addictive Behaviors Reports Volume 12, December 2020. 100293

ACE ≥ 4 : アルコール依存症の自認 OR:7.4
 違法薬物の使用 OR:4.7
 違法薬物の注射 OR:10.3 (Felitti, 1998)

何らかのACE : 成人の物質使用障害 OR:4.3
 女性のアルコール使用障害 OR:5.9
 予測因子 : 情緒的ネグレクト、性的虐待、身体的虐待
 男性の違法薬物使用障害 OR:10.3
 予測因子 : 身体的虐待、親の離婚、DVの目撃 (Broekhof, 2023)

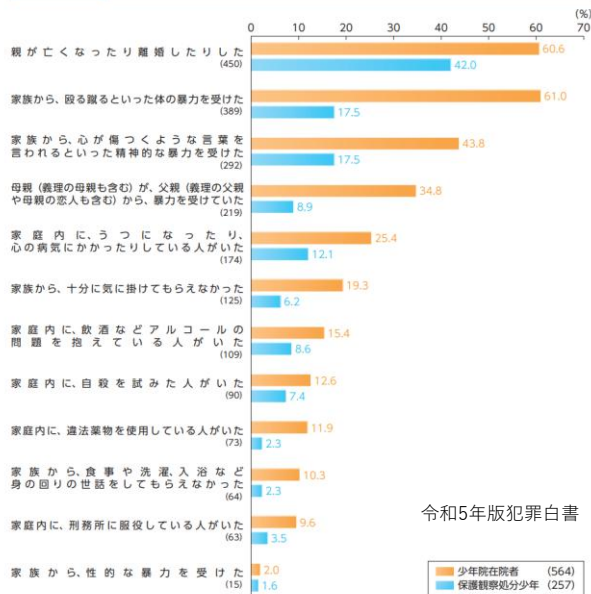
物質使用障害の女性患者の多くは、ACEスコアが4点以上
 人種・民族により、各種のACEの経験率が異なっていた (Bryant, 2020)



2026/6/26

少年非行とACE

7-5-5-1図 少年に対する調査 小児期逆境体験 (ACE) の経験の有無



令和5年版犯罪白書

注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 いずれかの項目が不詳の者を除く。
 3 各項目に該当した者 (重複計上による。) の比率である。
 4 凡例の () は、区分別の実人員であり、縦軸の () 内は、各項目に該当した者の実人員である。

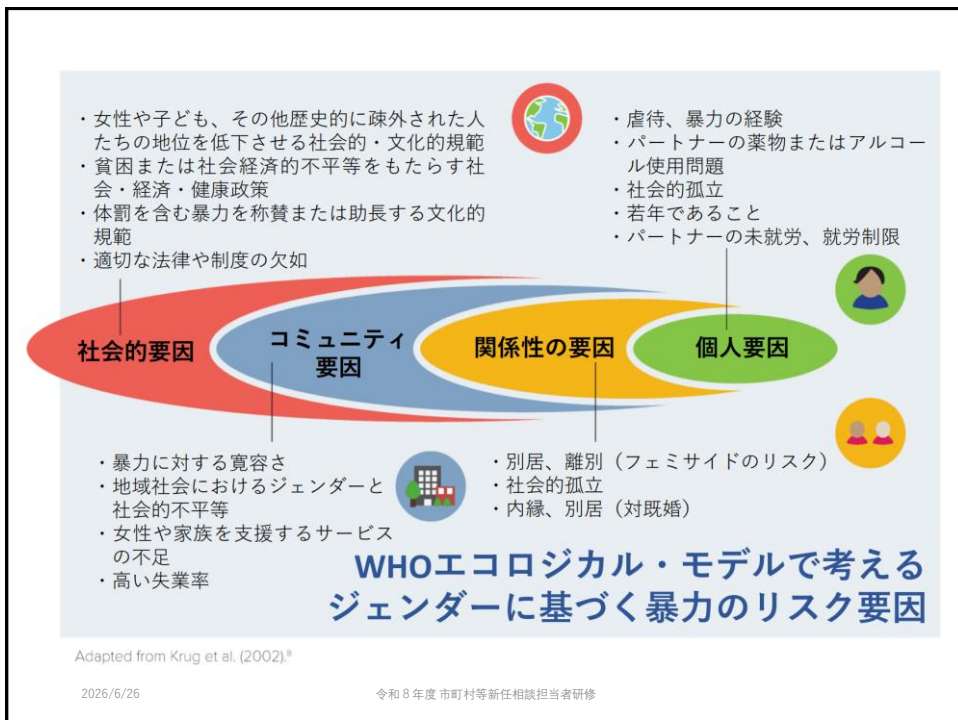
2026/6/26

Trauma- and Violence-informed Care

- ・トラウマを生み出す暴力は、環境から切り離された状況で起こるわけではない。社会的な構造や制度の中に暴力性が存在する「回避可能なのに回避されない」社会的不正義、社会的不平等⇒「構造的暴力」
- ・たとえば、ジェンダー、人種／民族、国籍、障がいの有無、経済状況、年齢など、それぞれの領域での権力の格差がある。それらが互いに影響し合い、暴力を生み出す文脈を作っている。
- ・暴力を生み出している社会構造に意識を向ける目を養うことで、大きな一歩ではなくても、自分や自分の組織ができる範囲で、身の回りにある暴力性を低減していくことができる。
- ・言葉や表現の用い方、施設内の設備の配置、当事者の雇用、掲示物や装飾品の見直し・工夫などからでも始められる。
- ・利用者と一緒に施設の中を回り、そこが利用者にとって、安心して、歓迎されていると感じられ、心地よい場所となっているか、確認していく（エクイティ・ウォークスルー）

2026/6/26

令和8年度市町村等新任相談担当者研修



互いに影響し合う構造的暴力

- 35歳、女性
 - 幼少時、性的虐待を含む虐待経験がある。
 - 高校中退
 - 自傷行為もあり、複雑性PTSD、うつ病と診断されたが、通院は途絶えがち。
 - 結婚し、子どもを一人授かったが、DVで離婚した。
 - その後、違法薬物使用で逮捕された。
 - 現在も親密なパートナーからの暴力を受けている。
 - シングルマザーで子どもを育てているが、正規雇用ではなく、経済的に不安定
- これらの要因は、単なる足し算としてではなく、互いに影響し合い、増幅し合って、社会的に不利な状況を作り出しており、それぞれの問題に対応するだけでは解消されない。

2026/6/26

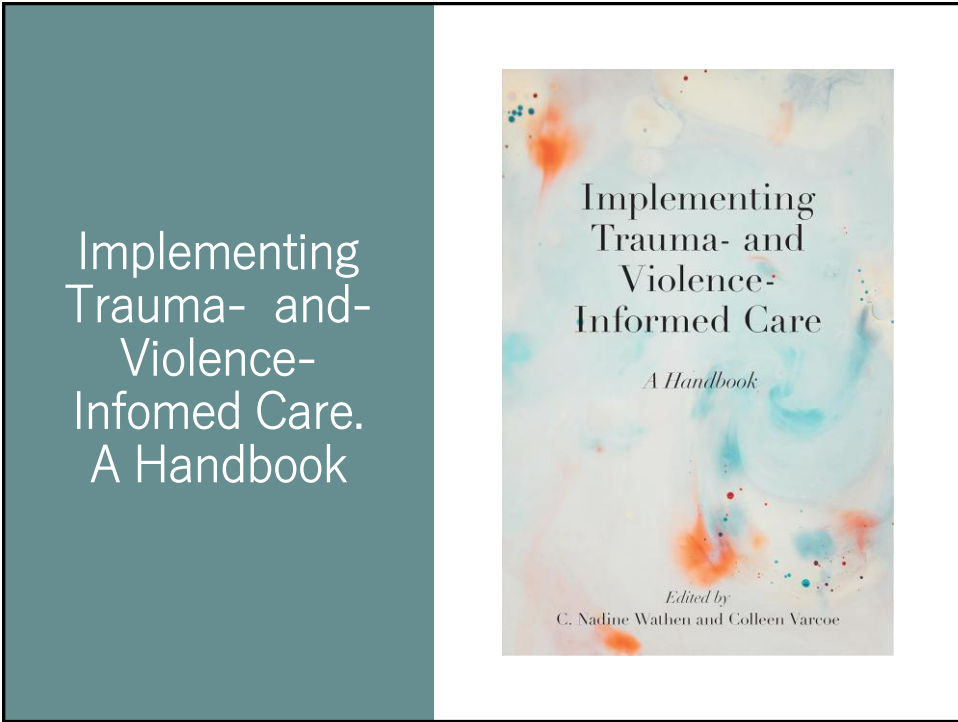
令和8年度市町村等新任相談担当者研修

言葉を言いかえる

- 統合失調症患者→統合失調症を持つ人→統合失調症を経験した／している人
- 患者、相談者→利用者、クライアント（、ケア・相談のために訪れる人）
- 支援者→支援を担う人
- 障害者→障がいとともに生きる（生きている）人
- 犠牲者→サバイバー
- 奥さん・ご主人、妻・夫、配偶者、彼女・彼氏→パートナー

2026/6/26

令和8年度市町村等新任相談担当者研修



トラウマ&バイオレンスインフォームド・ケア (Trauma and Violence-Informed Care)

TVICでは、トラウマインフォームド・ケアの考え方をひろげ、物質使用やトラウマに苦しむ人々には、人と人との間の暴力や、不公平など社会の構造に潜む暴力が影響を与えているという考え方を取り入れています。このような視点から、トラウマを経験した人、そして今もなお、トラウマを経験し続けている人が抱える問題は、その人の心の中だけでなく、その人を取り巻く社会環境の中にも存在するものと捉えています。

2026/6/26
令和8年度 市町村等新任相談担当者研修

**トラウマ&バイオレンスインフォームド・ケア
(Trauma & Violence Informed Care)**

TVICでは、トラウマと暴力の経験が、薬物使用やトラウマケアの質には、人と人との間に大きな影響を与えているという考え方を取り入れています。このような視点から、トラウマを経験した人、そして今なお、トラウマを経験し続けている人が持つ、その人の心の中だけにとどまらず、社会環境を取り巻く社会環境に在るものと捉えて

薬物依存研究部 検索

TVICに関する資料 タグ

2026/6/26 令和8年度市町村等新任相談担当者研修

